



認知症ケアパス



○認知症はだれでもなる可能性のある病気です。ここでは認知症の進み方に合わせての病状の変化や、その時にどのようにすると良いのか、どこに相談すると良いのか、使えるサービスなどをまとめました。

軽米町地域包括支援センター 46-3906



本人の様子	●年相応の物忘れがあるが、生活は自立。 ●つじつまが合わない話をする。 ●「物を盗まれた」等のトラブルが増える。 ●何回も同じことを言ったり質問する。 ●怒りっぽい。 ●昔のことは覚えているが、最近のことは忘れる。 ●物をよく無くす。 ●片付けが苦手になる。	●約束が思い出せない。 ●やる気がでない。 ●薬の飲み忘れが増える。 ●道に迷うようになる。 ●お金の計算がうまくできない。 ●生活リズムが乱れてくる。	●着替えや食事がうまくいかない。 ●季節に応じた服装ができない。 ●時間や場所がわからない。 ●入浴をしたがらない。 ●一連の動作ができなくなる。(調理、入浴、買い物など)	●被害妄想が増える。 ●ついさっきのことを忘れる。 ●トイレの失敗が多くなる。 ●徘徊が多くなる。 ●食べ物でない物を口に入れる。	●表情が乏しい。 ●尿や便の失禁が増える。 ●ほぼ寝たきりで意思疎通が大変。 ●家族の顔がわからない。 ●日常生活全般に介護が必要。
家族の気持ち・その対応	●社会参加や趣味活動への働きかけ、促し。 ●認知症を正しく理解する。 ●家庭内での役割をもってもらい継続できるようにする。 ●いつもと違う様子があったら早めに相談する。	●家族の気づきを大事にする。 ●主治医へ変化を伝える。 ●接し方の基本や工夫を理解する。 ●抱え込まずに相談する。	●できないことがあっても責めない。 ●介護サービスをうまく使う。 ●認知症になってもできることを探して役割を持たせて見守る。	●緊急時の対応を整理しておく。 ●家族自身の体調管理にも気をつける。	●日常生活でできないこと(食事・排泄・保清)が増え、合併症を起こしやすいことを理解する。 ●どのような終末期を迎えるのか家族間でよく話し合っておく。



認知症の人や家族への支援体制	予防	地域活動 健康診断 イベント参加 ふれあい共食 ボランティア 介護予防運動教室 老人クラブ いきいき百歳体操 趣味サークル サロン 寿大学 はつらつデイサービス あったかヘルパー	医療	かかりつけ医・かかりつけ歯科医 認知症サポート医 県立軽米病院精神科 認知症疾患医療センター こころの相談 物忘れ相談・物忘れ外来・デイケアわく夢(県立一戸病院精神科) 薬剤師の訪問 訪問看護 訪問診療	相談	軽米町地域包括支援センター 健康福祉課 認知症初期集中支援チーム 健康ふれあいセンター 軽米町社会福祉協議会 くらしの相談窓口 認知症カフェ 介護者のつどい(ゆったり介護の会) こころの相談 まちの相談室(傾聴ボランティア) いわて認知症電話相談 若年性認知症コールセンター ケアマネジャー 認知症サポーター 交番・駐在所・警察 民生委員 町内会 近隣の人 家族 認知症地域支援推進員 人権擁護委員 消費者センター(二戸)	介護	介護の相談窓口(軽米町地域包括支援センター、健康福祉課) おむつ支給事業(家族支援) 介護手当(家族支援) デイサービス ホームヘルプサービス(介護予防、総合事業型) デイサービス ホームヘルプサービス(介護保険サービス) 介護タクシー 福祉用具レンタル・購入、住宅改修 訪問入浴 訪問看護 訪問リハビリ ショートステイ 地域密着型介護サービス 認知症カフェ 介護者のつどい(ゆったり介護の会)	生活支援	よりそい弁当 あったかヘルパー 食料日用品配達サービス(民間事業者) 見守り・買い物代行サービス(民間事業者) 移動販売車(民間事業者) 地域・近隣の人 生活支援コーディネーター 認知症サポーター(認知症サポーター養成講座) 家族介護者教室	見守り	緊急通報装置 ひとり暮らし高齢者見守り事業 よりそい弁当 災害時要援護者台帳	住まい	高齢者及び障害者にやさしい住まいづくり事業(住宅改修補助金) 福祉用具レンタル・購入(介護保険外あり) 住宅改修 グループホーム(認知症対応型共同生活介護) 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム 有料老人ホーム(住宅型、介護型) ケアハウス (サービス付き)高齢者住宅 軽費有料老人ホーム	権利擁護意思決定支援	成年後見制度(任意後見制度・法定後見制度：カシオペア権利擁護支援センター) 弁護士や公証人による遺言の作成や死後事務委任契約 日常生活自立支援事業(あんしんネット) エンディングノート 認知症ノート(認知症本人ガイド) 事前指示書<HOTARU>
	予備															